

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト <http://ce.ag-j.or.jp/>

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

日付	2014年 8月 3日
単元	基本的な教理・1
テーマ	靈感された聖書
タイトル	聖書について - 神さまのことば -
テキスト	Ⅱ テモテ3:15-17
参照箇所	Ⅱ ペテロ1:21、ヨハネ20:31、ヤコブ1:21-22、ヘブル4:12、詩篇19:7、マタイ4:4
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	Ⅱ テモテ3:16
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小上 2 巻 3 題 1 課
□導入	例:物語でも、マンガでも、それを書いた人(作者)がいますね。「ドラえもん」の作者は誰だか知っていますか?では、聖書を書いた人は誰か知っていますか?
□ポイント1 聖書ってスゴイ!	<p>旧約聖書のうち、早いものは紀元前1400年ごろ書かれたと考えられます。新約聖書は、紀元50~100年ごろの間に書かれました。少なくとも1500年以上にわたって書かれました。それなのに、聖書の中心的メッセージは変わりません。あなたは、平安時代や江戸時代の人と、話を合わせられると思いますか?どうしてそんなことが可能なのでしょうか?それは、<u>著者は神おひとりだからです。</u></p> <p>聖書は世界のベストセラーです。年間およそ4億冊が販売・配布され、2200以上の言語に翻訳されています。たくさんの迫害がありつつも、現在まで残ったこと、今でも命がけでみことばを伝えている人がいるという事実も、聖書が神のことばであることの立派な証拠ではないでしょうか。聖書は、旧約39巻・新約27巻、合計66巻の本を合わせたものです(巻物に書かれていた時代がありました)。</p> <p>☞旧約というのは、古い約束という意味です。律法を土台とした、神とイスラエルの民の関係についての約束です。旧約聖書では、イスラエルの歴史・詩歌・預言をとおして、「やがて救い主が来られる」ということが語られています。新約聖書は、イエス・キリストによる救いを土台とした新しい約束です。「救い主が来られた」(キリストの十字架と復活によって、神さまの救いの計画が成し遂げられた)ということが書かれています。新約聖書があれば、旧約聖書はもう必要ないということではありません。旧約の準備があるからこそ、イエスのすばらしさや、神の救いの計画の真理がよく理解できるのです。</p>
□ポイント2 聖書は、神さまのことばです(3:16)	<p>聖書は異なる時代に生きた約40人の人間によって書かれました。それにも関わらず、聖書66巻の内容や考えのすべてが、始めから終わりまで、1つの筋で通されています。これらはすべて、神の靈感によって書かれました。聖書記者に聖霊が働いて、神さまのことばを書いたという意味です(Ⅱ ペテロ1:21)。例えば、マタイの福音書は、マタイという人が書きました。ですから字を書いたのは人間です。しかし、<u>どんなことを書くかを教えたのは神さまです。聖霊さまが、マタイという人を通して、語ってくださったのです。ですから、聖書は、神さまのことばです。聖書の全部分、ひと文字ひと文字、すべて聖霊によって、神さまの願ったとおりに書かれました。間違っ</u>て書かれた内容やことばはありません(詩篇19:7)。だから、聖書のどの部分も、すべて大切な神さまのおことばです。</p> <p>☞ディズニーランドの建物を作ったのは、きっと大工さんたちですね。しかし、みなさんは、ディズニーランドを造ったのは誰か?ときかかれたら、ウォルト・ディズニーと答えるでしょう。大工さんたちに、どんな建物を造るかを、教えたのはウォルト・ディズニーさんだからです。同じように、<u>聖書は約40人の人によって書かれましたが、どのように書くかを教えたのは神さまですから、実際の著者は、神さまです。</u></p>

☞ 靈感によって…聖霊にあやつられてペンを持つ手が勝手に動いたとか、神の声を速記したとかいうことではありません。聖書記者の考えや記述方法をその人なりの人格的特徴を用いながら、神の願うとおりに誤りなく書かせるようにしたものです(例:医者であったルカによる記事は、医者らしく、事実を綿密に調べ、順序だてて書かれています)。それぞれの記者は聖霊の感動を受け、導きを受けながら、預言・歴史的資料・教理・体験などを記述していったのです。その際の聖霊の働きは聖書記述のときだけにあらわされた特別なもので、それ以降は起こることのないものです。

□ポイント3 聖書は私たちへのメッセージです(3:15-17)

聖書は、私たちがイエスさまを信じて救われ、永遠の命を得ることができるよう書かれました(15節、参照ヨハネ20:31)。これが、聖書の書かれた目的です。私たちが滅びないように、神さまが愛のメッセージを書き表してくださったのです。「主のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ」ます(詩篇19:7)。人はパンだけで生きるのではありません、みことばがないと心が死んでしまうのです(マタイ4:4)。

また、聖書は、私たちがさらに神さまによるこぼれる人に成長するように、私たちに訓練してくれます(16節)。聖書は、神さまが私たちに送ってくださったメッセージですから、その通りに従えば、心が成長し、心が満たされます。それを素直に受け入れ、行なう人になるべきです(ヤコブ1:21-22)。「それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです」(17節)。

□結論 聖書は、神さまが書いてくださった、私たちへのメッセージです

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. 聖書は、神さまの言葉ですから、間違いのない真理です。すなおに信頼して従いましょう、必ず祝福を受けます(詩篇1)。あなたは、お友だちに話しかけられたら返事をしますね?では、神さまがあなたに語りかけ、メッセージを送ってくださっているのに、知らん顔しても平気ですか?礼拝のメッセージは、100%集中して聞こう!みことばを聞いたら、お祈りで応答しよう。それを行なう人になろう!
2. いつでも、どこでも神さまのことばを思い出せるように、暗唱聖句にとりくもう!聖書のことばは生きています(ヘブル4:12)。心に神さまのことばをたくわえておくと、あなたの元気の素になります。悲しいとき、困ったとき、誘惑に負けそうとき、おともだちにイエスさまのことを伝えたいとき、聖霊さまがみことばを思い出させてくださって、必ずあなたを助けてくださるのです。
3. 毎日のディボーションにチャレンジしよう!「こひつじ」のホームページにディボーションノートがあります。始めは毎日できなくても、週に1回からでも、少しずつ回数を増やしていけば、スゴイことです。自分で、神さまのことばを聞けるようになったら、神さまとの関係がグ〜と深まるよ。ゴハンだって、いつまでもお母さんに食べさせてもらっていないよね。同じように心のゴハンも自分で食べられるようになろう。

【参考】聖書の命令形

聖書は神様の言葉だから、私たちは従っていきます。「~しなさい」という命令形が出てきたら、次の3つのことを思い出すと良いよ。

1. 命令するほどに、それは命にかかわる大切なこと
従っても従わなくても、どっちでもいいよ、ということではありません
2. 神様は私たちが愛しているということ(聖書は神様から私たちへの愛の手紙です!)
私たちがどう生きようと無関心なお方ではありません。愛しているから語られるのです。
3. 従う力をも与えて下さる
神様の言葉に従おうとする人を、聖霊は助けずにはおれません

教師ノート

日付	2014年 8月10日
単元	基本的な教理・1
テーマ	神の無限性
タイトル	神について ―無限大の神さま―
テキスト	エレミヤ23:24、イザヤ44:6、マタ10:29-30、ヘブル4:13、エレミヤ32:17
参照箇所	創世記17:1、詩篇90:1-2、139:7-11、箴言5:21、エレミヤ10:3-5、 マタイ18:20、19:26、28:19-20、使徒1:8、17:24-28、ユダ25、黙示録1:8、 21:6、22:13
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	エレミヤ32:17

AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)
[小下3巻1題9課](#)

メモ(情報・例話など)
※アウトライン・教師ノートは高学年向けに作られています。必要に応じて、聞き手の段階に合うようにアレンジしましょう(低学年が多い場合は、ポイント3「何でもできる神さま」だけを語るなど工夫しましょう)。

□導入
みなさんは、永遠に生きることができますか？この世界のすべてのものは、どんなものでも限界をもっています。どんな優秀な博士もコンピューターでもできないことがあります。どんなにお金や力や美しさがあっても、やがて衰えます。しかし今日は、時間も場所も知恵も力も、全ての限界を超えて、無限のパワーをもっているお方を紹介しましょう。

□ポイント1 神さまは、いつでも、どこにでもおられます
☆空間に関する無限: 偏在性・・・みなさんは、例えば、お友だちと野球もしたいけど、家族とプールにも行きたいなど、スケジュールが重なってしまったとき「同時に2つの場所にいられたらいいのに」と思ったことはありませんか？でも、それは絶対に不可能ですね。しかし、神さまは、同時にどこにでもいることができます。ご自身で「天にも地にも、わたしは満ちているではないか」とおっしゃっています(エレミヤ23:24)。神さまは、この世界のどこにでもおられるのです。神さまは、日本にいるのと同時に、ハワイにおられます。世界で一番速く走れるチャーター機も、ジェット機でも無理ですが、神さまは、どこにでもおられます。
☆時間に関する無限: 永遠・・・また、神さまは、いつでも、永遠におられます。神さまは「私は初めであり、終わりである」とおっしゃいました(イザヤ44:6、参照黙示録1:8、21:6、22:13)。神さまは昔むかしのず～つと前、世界の初めよりもっと前からおられ、永遠の先、限りない未来までもおられます(詩篇90:1-2、ユダの手紙25節)。そして今ももちろんおられます。神さまがいなかったときは、ありません。これからも、神さまがいなかったときは、ありません。人間の肉体の命は限りがありますが、神さまは、いつでも生きておられます。

☞パウロは「この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません・・・確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。」と言いました(使徒17:24-28)。もし、木や金属で彫ったモノが神さまなら、神さまは動けないので、人間の方からお参りにいってあげないといけません、本当の神さまは、いつでもどこでも、ともにいてくださるのです(エレミヤ10:3-5参照)。時間をつくったのも、空間をつくったのも神さまですから、神さまがそれに束縛されることはありません。

☞ある幼い男の子が言ったそうです「神さまはとても大きいから、どこにもいく必要がないんだね。」

□ポイント2 神さまは何もかもご存じです

☆知識・知恵に関する無限:全知性・・・ 神さまは、この世界で起こっていることを、何でもご存じです。イエスさまは、「雀の1羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています」(マタ10:29-30)とおっしゃいました。神さまは、世界中のスズメの動きも、世界の60億人以上のひとりひとりの髪の毛の数もすべてご存じなのです。また聖書には「造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています」(ヘブル4:13)と書かれています。神さまは、この世界のどこで起こっていることも、過去・未来に起こることも、すべてご存じです。ですから、私たちひとりひとりの性格や人生についても、すべてご存じです。 cf.世界中の人が同時に祈っても、神様は全員の声聞いておられます！

☞ 子どもたちに、神さまがいつも私たちを見張っているという怖いイメージを与えすぎないように注意しましょう。「人の道は主の目の前にあり、主はその道筋のすべてに心を配っておられる。」(箴言5:21)とあるように、神さまは、私たちを見張っているのではなく、愛のまなざしで見守ってくださっているのです。

□ポイント3 神さまは何でもできます

☆全能性・・・ 神さまご自身が、「私は全能の神である」とおっしゃいました(創世記17:1)。エレミヤは「あなたには何一つできないことはありません」と言いました(エレミヤ32:17)。神さまは何でもできます。みなさんも、神さまが何もないところから天地万物を創造し、海を裂いて道をつくり、ダニエルをライオンから守り、ヨナを魚の腹に入れることができたのを知っていますね。神の子であるイエスさまが、水をぶどう酒に変え、嵐を沈め、水の上を歩いたことも知っているでしょう。神さまは、自然の法則を超えた不思議な奇跡を起こすことができます。イエスさまは「それは、人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます」とおっしゃいました(マタイ19:26)。

☞ 神さまはウソをつくことができるの？ 神はウソをつくことや、悪を働くこと、失敗することはできません。これは、神の弱さではなく、強さです。偉大で完全な神であるからこそ、力のしるしです。神さまは善だから、悪を行うことはできません。また神さまは愛だから、愛することをやめられないのです。

□結論 神さまは、無限大です

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

☆偉大な神さまをほめたたえましょう。

神さまってスゴイ！と感じたら、とにかくほめたたえよう！この世界をつくり、支えておられる無限大の神さまに、感謝と賛美をささげよう！

☆偉大な神さまを信頼、恐れずに何でもチャレンジしよう！

1. 神さまは、いつでも、どこに行っても、私たちひとりひとりの内にいてくださるのです。「私はあなたの御霊から離れて、どこへ行けましょう。私はあなたの御前を離れて、どこへのがれましょう。・・・私が暁の翼をかけて、海の果てに住んでも、そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右の手が私を捕えます」(詩篇139:7-11)。イエスさまは、世の終わりまで彼らとともにいると約束してくださいました(マタイ28:19-20、使徒1:8)。また私たちが集まって祈るとき、どこでも必ずいてくださいます(マタイ18:20)。
2. 神さまは、すべての知恵と知識をもっておられます。私たち人間は、知らないことばかりです。まして未来のことは分かりません。しかし、神さまは、私たちの人生の最高の道、最善の方法をご存じです。ですから、私たちは、ただ神さまに信頼してお祈りし、おゆだねしよう。何でもご存じの神さまは、同時に私たちを最高・最善の人生に導いてくださる愛の神さまです。安心してありのままの心をオープンにしよう。
3. 神さまは、何でもできます。私たちの生活・人格・人生を変えることができます。将来ひょっとしたら、科学や技術の発達で、海を裂く道がつくれたり、水の上を歩いたりできるかも知れませんが、私たちの心を変えてくださるのは、神さまだけです。自分の性質で、変えて欲しいところはどこですか？神さまにしか変えられないことを、大胆に祈って、変えてもらおう！

教師ノート

日付	2014年 8月17日
単元	基本的な教理・1
テーマ	神の愛と義
タイトル	神について -愛と義の神さま-
テキスト	ローマ5:6-8、エレミヤ9:24、詩篇98:9
参照箇所	詩篇73:17-27、ヨハネ15:13、Iヨハネ4:8,4:10、Iコリント13:4-8
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) ローマ5:6-8 or エレミヤ9:24 or 詩篇98:9	
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます) 中3巻4題12課	
メモ(情報・例話など) ※アウトラインと教師ノートは高学年向けに作られています。必要に応じて、聞き手の段階に合うようにアレンジしてください(低学年が多い場合は、ポイント1「神の愛」だけを語るなど工夫しましょう)。 □導入 今日も、神さまのご性質について、お話します。神さまの愛とは、どんな愛でしょう？恋愛ドラマの愛と同じでしょうか？神さまの義とは、何でしょうか？ ☞「信仰義認」の教理については、「救い」の単元で扱います。 □ポイント1 神さまの愛は、どんな愛でしょう？(ローマ5:6-8) 神さまの愛は、私たち人間の愛とは違います。7節に「正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人がいるいはいるでしょう」とあります。これが人間の愛です。私たちは、「性格がいいから愛する」とか「親切にしてくれるから愛する」とか、相手に愛するだけの値打ちがある場合に、相手を愛することができます。 しかし、神さまの愛は、ただ私たちのためだけを思って、値なしに注がれる愛です。神さまは「私たちがまだ罪人であったとき」(8節)愛してくださいました。また、「弱かったとき」、「不敬虔な(神さまに従わない)者」を愛してくださいさるのです。私たちの方からは、神さまに何もよくしてあげられなくても、神さまは何も得をしなくても、私たちのことを「高価で尊い」といって大切に思ってくださるのです。 また、神さまの愛は神さまの方から進んで、ご自身を犠牲にしてくださいさる愛です。イエスさまは、罪人である私たちのために「進んで」、「死んでくださった」のです(7-8節)。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです」(Iヨハネ4:10)、「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません」(ヨハネ15:13)とあるとおりです。 ☞十字架のみわざは、神さまの愛のご性質そのものなのです。このようにして神さまは、ご自身の愛を明らかにしてくださいさったのです(8節)。このような愛を、人間の愛と区別して、「アガペー」の愛と呼びます。聖書の原語で神さまの愛を表すことばです。 ☞聖書は、「神は愛です」(Iヨハネ4:8)と言っています。神さまのご性質の中で、愛というのは非常におもだった重要なものです。ですから、神さまのことを知りたいと思ったら、神さまの愛について知ることがとても大切です。 ☞Iコリント13:4-8「愛は寛容であり…」は、まさにアガペーの愛の描写です。	

□ポイント2 神さまの義とは、何でしょう？(エレミヤ9:24、詩篇98:9)

神さまご自身は「義」なるお方です。神さまは、ご自身で「わたしは主であって、地に恵みと公義と正義を行なう者であり、わたしがこれらのことを喜ぶからだ」とおっしゃいました(エレミヤ9:24)。それは、神さまは、ご自身の定められた律法に、完全に従って、正しく行動する方であるということです。神さまが、ウソをついたり、残酷になったり、悪をなすことは、絶対にありません。

そこで、神さまは、私たちにも「義」であるように求めておられます。神さまは、私たちにも、神さまの教えに従って正しく生きるように、強く願っておられるのです。

そして、神さまは、私たちを「義」によって裁判してくださるお方です。公平で正しい審判です。「主は義をもって世界をさばき、公正をもって国々の民を、さばかれ」ます(詩篇98:9)。人間の裁判・審判には間違いがあり得ます。アウトなのにセーフと見間違えたり、犯人ではない人を、間違った証拠やウソの証言をもとに刑務所に入れてしまったりします。また、裏では悪いことをしている人が、先生の前でだけイ子にしてほめられてしまうこともあれば、逆に見えないところで頑張っている人が、ちょっとした失敗や誤解で、罰を受けてしまうようなこともあるでしょう。でも、神さまの裁判では、間違いも、えこひいきもありません。義と公正をもって裁かれます。すべての罪が正確に明らかにされ、すべてのよい心が正確に明らかにされます。正しい人にも、不正な人にも、正しくその報いが与えられます。

☞ 私たちは、「あの人は天国、あの人は地獄」と人を裁いてはなりません。最後は、神さまが「正しく」裁いてくださるので、お任せするだけです。ただ神さまを信じて正しく生きるように励みましょう。

☞ どうして、愛と義の神さまは、世の中で正しい人が苦しんでいたり、不正な人が得をしているという不公平をゆるしているのでしょうか？地上の人生だけが全てではないからです。肉体が死んだ後、魂がどうなるかの方がずっと大事です。一番大事な最後の裁判では、この世のような不公平はありません。イエスさまを信じている人は、最後は必ず最高の結果に終わるのです。(みなさんがよく見るドラマやマンガでも、正しいひとが始めは苦しんでも、最後は必ずハッピーエンドになりますね)。天国では、神さまの愛と義が完全なものとなります。詩篇73:17-27を読もう。

□結論 神さまは、愛であり、義なるお方です

神さまは、私たちが罪人であったときに、私たちのために進んで、御子キリストの命を犠牲にして、その愛を表してくださいました。そして、神さまは義と公正をもって私たちを裁いてくださるお方です。

☞ 愛と義は相反するものではありません。人を甘やかし、ただやりたい放題にさせるのが愛ではありません。正しいことを正しい、悪いことを悪いとはっきり教える正義なくして、愛は成立しません。愛と義は相互に含まれている関係です。また、神の義は罪に罰を与え、神の愛は罪を赦します。そこでイエスさまが、罪人への愛のゆえに、その罰を受けられたのですから、愛と義は一緒に働くものです。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1:私があなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさいとあります。神さまの愛がどんな愛か分かったら、そのように家族やお友だちを愛せる人になりましょう。どこの国の人も、こどももお年寄りも、やさしい人もイジメっことも、みんな神さまに愛されています。どんな相手にも、自分から進んで犠牲を払う、究極の神の愛をあらわせる人をめざそう!

例2:神さまが最後の審判で正しく裁いてくださることを喜ぼう! 私たちはイエスさまの十字架によって罪が赦されているのです。だからこの世での不公平に文句を言ったり、くじけたりしないで大丈夫です。ただ神さまを愛して生きていけば、間違いなく、天国に行けるのです。喜んで、神さまを愛していこう!

教師ノート

日付	2014年 8月24日
単元	基本的な教理・1
テーマ	三位一体
タイトル	神について -三位一体の神さま-
テキスト	申命記6:4他
参照箇所	イザヤ44:6-17、45:5・6、マタイ3:16-17、16:16、ヨハネ6:27、20:28、使徒5:3・4、Iコリント3:16、8:4
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	申命記6:4 or 詩篇145:3 or IIコリント13:13
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下3巻1題12課
メモ(情報・例話など) ※今回の教師ノートは、メッセージ例です。子どもたちと一緒に、聖書を開きながら、三位一体の真理を発見します。	
□導入 今日は、みんなといっしょに聖書を開いて、神さまのことを楽しく学びましょう！とっても不思議なことが発見できるよ！	
□ポイント1 神さまはただお一人です ◇早速3人のお友だちに聖書を開いて読んでもらいましょう。これらの聖句から、どんなことがわかりますか？(3人指名し、申命記6:4、イザヤ45:5-6、Iコリント8:4をそれぞれ読んでもらいます)。 →神さまは、ただおひとりで、他にはいないということですね。神さまはただおひとりです。私たちが信じている、聖書の神さま以外の神々は神ではないのです。他の宗教の神々も、マンガに出てくる神も、神とは呼ばれていますが、本当の神さまではありません。日本人は何でも「神」と呼んでしまいます。木や石を守り神として拝んだりします。イワシの頭も信じればありがたい神さまに思えるという言葉さえあります。マイケル・ジョーダンはあまりにもバスケットボールが上手だったので「バスケットボールの神さま」と呼ばれましたが、本当は神さまではありません。本当の神さまは、ただひとり、聖書の神さまだけです。ほかにはいません。	
□ポイント2 イエスさまは神さまです 1. 聖書を読んで、神さまは、ただおひとりで、他にはいないということが分かりましたね。では、その神さまとはどなたでしょう。 ◇ヨハネ福音書20:28を開いてください。トマスは、イエスさまのことを誰だと言っていますか？ →「私の主、私の神」と言いましたね。そうです、みんなも知っているとおりに、イエスさまこそが、ただひとりの神さまですね。 ◇では、マタイ16:15-16を読みましょう。ペテロはイエスさまのことを誰だと言いましたか？ →「あなたは、生ける神の御子キリストです」と言いました。	
2. イエスさまが神の子なら、その親はだれでしょう？ ◇聖書に「父」と呼ばれるお方が出てきますが、誰のことだか、みんなで、聖書を開いて調べてみましょう。(3人指名する) A君はヨハネ福音書6:27、Bちゃんはローマ人への手紙1:7、C君はガラテヤ人への手紙1:1を読んでください。 →父とは、「父なる神」のことですね。私たちが「天のお父さま」と祈るときの、「父なる神さま」です。ニワトリの子はニワトリ、カエルの子はカエルです。イエスさまは、父なる神さまの子だ	

から、神さまなのですね。

→あれ？でも・・・、聖書には「神はただおひとり、他にない」と書いてあったのに、イエスさまも神さま、父なる神さまも神さまだったら、神さまが2人になってしまいますね。

□ポイント3 聖霊は神さまです

では、他にもないか調べてみましょう。

◇Dさん、使徒の働き5:3-4を読んでください。

→聖霊を欺くことは、神を欺いたことだとあります。ということは、つまり聖霊と神さまは同じということですね。聖霊は3人めの神さまでしょうか？

◇E君、Iコリント3:16を開いてください。

→私たちの体は、神の神殿ですね。その私たちの体(神さまの住む家)に、聖霊が住んでいますね。聖霊は神さまだから、神さまの家に住んで良いのです。

□結論 父・子・聖霊なる神さまは、三位一体の神さまです

じつは、聖書は、父なる神・子なるイエスさま・聖霊なる神さま、3人とも神さまだと言っています。そして同時に、神さまはただおひとりだと言っています。この「父・子・聖霊の3者とも神さまそのもの、神さまはただおひとりです」という神さまのご性質を、「三位一体」と呼んでいます。

☞「三位一体」についてももう少し詳しく見てみましょう。

- ・神はただ1つの存在ですが、このただ1つの存在の中に、父と子と聖霊なる3者の存在があります。
- ・しかし、3者がそれぞれ1/3ずつの神で、足して1つの神になるのではありません。父・御子・聖霊は、それぞれ等しく、それぞれ神そのものです。つまり、父も神そのもの、イエスも神そのもの、聖霊も神そのものです。
- ・同時に、3者はそれぞれ神そのものですが、父・子・聖霊は3つの個別の神々(複数)ではありません。ただ1つの神です。つまり、 $1+1+1=3$ のように3人の神さまではなくて、神さまはただおひとりです。

☞「三位一体」という用語は、聖書の中に出てくるものではありません。しかし、聖書の内容に適合したことばです。ですから、三位一体は、完全に聖書的な教理です。

☞ 氷⇄水⇄水蒸気のイメージでは、三位一体を表現することはできません。父・子・聖霊の3者は、様態の変化ではありません。マタイ3:16-17で、父・子・聖霊は同時に現れています。水は、氷であると同時に水蒸気であることはできません。三位一体は、「昔は父なる神の時代→キリストの時代→今は聖霊の時代」という変化ではありません。

☞ 子どもたちには、あまり難解にならないように伝えるのが良いでしょう。特徴だけシンプルに伝えるように心がけましょう。三位一体の原理については「なんとなく分かった」でOKです。「神さまってスゴイ」と思ったら充分です。私たち人間は、神さまのことを完全には理解できないのですから・・・(ローマ11:33-4、ヨブ5:9、詩篇145:3)。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

私たちの理解をはるかに超えた、神さまの偉大さをほめたたえましょう！三位一体の真理は、私たちには「なんとなく」しか理解できないかもしれません。神さまは、それだけ大きくて、私たちよりもはるかにすぐれているということです。ダビデ(詩篇145:3)も、ヨブ(ヨブ5:9)も、パウロ(ローマ11:33-4)も、はかり知れない神さまのすばらしさをほめたたえています(彼らは人生において死ぬほどの苦しみをうけた人たちです)。私たちの人生には、人間では理解できない苦しみがたくさん起こります。「どうして私がこんなに苦しまなければいけないの！」と叫びたくなることがあるでしょう(病気・ケガ・悪口・いじめなど)。そんなときも、想像をはるかに超えた神さまを賛美しましょう。私たちには理解できないけれど、「神さまがご存知だから大丈夫」と信仰によって、神さまを信頼しよう。